

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生医療福祉専門学校福岡校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生医療福祉専門学校福岡校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	天野 恵	(福)まごころ会 あゆみらい保育園(主任)
業界関係者	井上 将彦	(医)聖峰会 マリン病院(事務次長)
業界関係者	潮田 大介	(有)ケンルック(事務長)
業界関係者	江川 順一	(福)つくし福祉会 特別養護老人ホームはなつくし(施設長)
業界関係者	大庭 欣二	(合)福岡福祉向上委員会(代表)
高等学校	熊谷 智彦	(学)久留米学園(校長)
業界関係者	桑原 由美子	NPO法人発達障がい者就労支援 ゆあしっぷ(理事長)
業界関係者	副島 和代	そえじま内科クリニック(事務長)
業界関係者	武田 聡	NPO法人ヒュッテ カフェヒュッテ(施設長)
業界関係者	矢島 博仁	公立学校共済組合 九州中央病院(事務部長)
地域住民	高田 照幸	(株)たかた商会(代表取締役)
有識者	占部 尊士	西九州大学(准教授)
有識者	大山 和宏	(一社)福岡県精神保健福祉士協会(会長)
有識者	西山 謙	(公社)福岡県病院協会 診療情報管理研究研修会(委員長)
卒業生	田中 隼平	福祉心理学科(心理カウンセラー科) 卒業生

卒業生	中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生
卒業生	眞島 顕弥	こども未来学科 卒業生
卒業生	宮井 浩志	社会福祉科 卒業生
保護者	井上 雅美	ソーシャルワーカー科 保護者
保護者	中村 良美	診療情報管理士科 保護者

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2021年 6月 26日（土）13:00 ～ 14:10

場 所：オンライン

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者評価委員の皆さまに、2020年度の実績に対する自己点検・評価の結果を学校から報告し、自己評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果の評価）の仕方

2020年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【評価結果・取組み状況】

(1) 教育の向上を図るためカリキュラムマップ及びカリキュラムツリーをもとにした教育方針・目標・内容を共有する。

コロナ禍のため、オンライン授業実施にかかる教員の負担が増大し、特に非常勤講師を対象とした教育内容の共有機会を設けることが難しかった。

(2) 授業アンケートのフィードバック等による授業運営の向上を図る。

授業アンケートは実施できたが、オンライン授業の兼ね合いもあり、授業アンケート結果のフィードバックについてはタイムリーに実施する事が出来なかった。

(3) 業務分掌の作成などにより業務の効率化を図る。

コロナ禍により時間的に余裕がなく、業務分掌の作成など教員個々の業務を可視化するまでには至らなかった。

【委員からの意見】

・コロナ禍でスケジュール調整が困難であったと思われるが、講師に対する評価（特に非常勤）・フィードバックはしっかりと行うことが重要である。

【改善の方策】

・非常勤講師を対象とした評価・フィードバックについても、方法を考えて取り組んでいく。
・業務の可視化と負担の軽減については、学校全体で取り組んで公開していく。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

・建学精神に基づき、教育理念、教育の目的及び人材育成像を定め、学校構成員に周知を図っている。また、ホームページに掲載し、社会への公表も行った。

・学科ごとに定めた目的、育成人材像、目標を学生便覧に掲載するとともに、学生・保護者及び非常勤講師に配付のうえ説明している。アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーについては、体系的に周知できるよう学科ごとに見直し、学生・保護者に対しては、オープンキャンパスをはじめ、入学後の新入生オリエンテーションなどで周知し浸透を図った。

【委員からの意見】

・情報発信のICT活用に関しては、ハード・ソフトの面から、法人全体での取り組みが必要である。中長期計画での位置づけを図り、業界をリードして欲しい。

・教育理念・教育目標の周知については、しっかり取り組んでいると思われる。今後は、時代の流れ、環境の変化に応じた理念・目標の確認、見直しも必要になってくるとと思われる。

【改善の方策】

・情報発信のICT活用については、関係部署との連携・協働により進めていく。
・社会環境に合わせて、教育目標を適時的に見直し更新していく。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・通常、年度ごとに策定する運営方針を年度開始時に全教職員に周知しているが、今年度はコロナ禍の影響により年度期首には周知できなかった。
- ・運営方針に沿った事業計画を策定し、それに基づき運営（運営が入っていないと計画のみを検証しているようにとられる）しているか否かについては、関連部署との連携を図り、定期的な責任者会議を経て検証した。しかしながら、連絡事項の伝達に終始した内容になった会議が多かった。
- ・年度期首、教職員に周知できなかった学校の理念に沿った運営方針や事業計画は、学内の定例会議において教職員全員に周知した。また、責任者会議や各系会議では、現状把握や問題解決のための具体的な取り組みを話し合った。しかし、カリキュラムに関する検討等の会議は、定例的に開催することができなかった。
- ・学生情報や教職員の勤怠に至るまで情報システム化に取り組み、麻生塾システムで広報、入試、学籍、教務、就職など学校運営上必要な情報を一元管理している。勤怠システムでは、教職員の出勤に関する管理を行い業務の効率化に取り組んだ。

【委員からの意見】

- ・通信課程及び介護福祉養成課程の事務職員は専任配置となっているか。

【改善の方策】

- ・カリキュラム会議を8月中旬に実施し、運営方針からの行動計画（活動計画）を全体で共有する。
- ・介護福祉養成課程の兼務となっている事務職員を専任事務職員の配置に改善する。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・通常カリキュラム会議を開催して教育活動の改善・発展を行っているが、コロナ禍の影響により2020年度は実施できず、今までの踏襲となったところがある。また、入学前のリメディアル教育として取り入れている「ASOドリル」は本校のリメディアル教育としてはそぐわない部分が多いので、今後各学科の教育や特徴に応じた内容に変更していく。
- ・コロナ禍の影響により現場での実習や実践的な職業教育ができなかったため、学内実習に変更した。
- ・オンライン授業に関するスキルが均一ではないため、その改善への取り組みが不十分である。オンライン授業のスキルが高い教員の授業見学を行うなど、全体でレベルの高い授業を実施できるように取り組みをさらに行っていく。
- ・コロナ禍のため専任教員の現場研修は実施できなかった。能力開発、教員インターンシップを次年度は強化したい。

【委員からの意見】

- ・ホームワークを行う中での学生の取り組みの差についての課題を整理すべきである。
- ・実習ができない場合の学内実習をさらに充実させていくべきである。
- ・入学前のリメディアル教育が大切な事とは業界関係者なら思うことだが、まだ必要性を実感されていない学生の方にはその先の仕事の様子、使われる知識や計算のイメージを膨らませてあげるのもよいかと思う。

- ・オンライン授業については一方通行にならぬよう検討されたい。
- ・コロナ禍により1年生の時のように授業も実習もあまり出来ないまま施設研修に参加したので、学生は不安だったようだ。
- ・人数が少ないソーシャルワーカー科で退学者が数名いたようで心配だ。残りのクラスメートたちには卒業までしっかりと教育を行ってほしい。

【改善の方策】

- ・改善すべきことが多いが課題は見えている。教育活動の質をさらに高めるために丁寧に対話して進める。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・退学につながりそうな者については、学生個別の検討会議の開催などにより情報の共有化を図り適時に対応することで一定の効果があった
- ・学修成果に関しては、コロナ禍の影響でシラバスどおりの授業が展開できなかつたこともあり、多様な視点からの成果達成状況を把握することが困難であった。

【委員からの意見】

特になし

【改善の方策】

オンライン授業における学生の習熟度の向上に注力し、授業展開及び測定方法について共有する。また、他校で成果を上げている教員の授業を積極的に見学するなどし、オンライン授業における習熟度の向上を図る。また、eラーニングシステム「ナレッジデリバー」をさらに活用し、検定対策や国家試験対策に有効に活用していく。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・近年増加している留学生の支援については、企業様からの食糧支援に加え、全校あげての募金活動を実施した。また、コロナ禍のため飲食店休業などでアルバイトを失った留学生には福祉施設でのアルバイトを紹介して生活支援を行った。
- ・高等教育の修学支援（いわゆる無償化）については、麻生塾全校で認可を受けて適切に支援した。
- ・卒業生支援として、社会福祉士国家試験対策講座を完全オンライン講義にて実施した。
- ・保護者様への支援としては、オンラインにて就職に関する保護者説明会を実施した。

【委員からの意見】

- ・コロナ禍に負担が増加した担任の先生へのサポートを一層強化してほしい。
- ・金銭面や学業面だけでなく、メンタル面での支援も必要である。
- ・個人情報の取り扱いについては、周知徹底を図られたい。

【改善の方策】

- ・コロナ禍における修学支援・生活支援・進路支援については、今後も変化が著しいと考えられるため、適時学生の状況を把握し社会情勢について情報収集に努めると同時に、様々な困難な状況にある学生の修学を内面からもサポートできるよう、学生相談やカウンセラーとも連携していく。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

オンライン学習へとシフトしたこともあり、オンライン授業を受講するために必要な機器について有料、無料を含めて貸し出しを実施した。また、2021年度新入生に対しては、リユースPCの購入を検討するよう事前に案内した。

【委員からの意見】

新入生からノートパソコン必携となるだろう。大学では普段の授業でも持参するようにしている。大学所有のものが無くなり、各自持っているものを使うことになるだろう。ただしITリテラシーの標準化が難しい。大学の留学生は卒業までパソコンを貸与されている。

【改善の方策】

オンライン授業の受講方法として、スマートフォンでの視聴が多いことから、今後は入学時のPC購入を一層推奨し、教育環境の向上に寄与していく。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・オンラインでの募集活動を初めて実施し、入試もすべてオンラインで実施となった。選考基準を定めて適切に実施することができた。
- ・アドミッションポリシーを策定し、学生便覧によって教職員はじめ学生等に周知し、WEBや募集要項によって社会に公表した。
- ・選考方法は募集要項に明記し、かつ選考基準を定め、適正に入学者選抜を行った。
- ・法人の財務状況などを考慮しながら、健全な校納金や入学金の設定を行った。

【委員からの意見】

・コロナ禍の影響もあり、生徒の募集に関してもますますWEBでの情報発信が重要になってきていることと思う。WEBでの専門学校の検索ヒット率、閲覧数の向上、わかりやすいサイト設計の検討などを求める。

【改善の方策】

- ・募集対象者へ教育成果を伝えるために、WEB上公開されるものも含めて、情報を遅延なく公開する。
- ・学生募集にLINEやインスタグラムなどのSNSをさらに活用し、WEB広報を強化していく。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・ 予算計画および予算執行については、年度初めの事業計画を基に適切に執行した。
- ・ 学生募集の目標を達成し、学校の財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できた。
- ・ 監査は、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による会計監査が適切に実施し、財務情報はホームページにて適切に公開した。

【委員からの意見】

- ・ 特になし

【改善の方策】

- ・ 学校の教育力発信を通して、学生募集をさらに強化し、財務基盤の維持を図っていく。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・ 学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守して学校運営を行っているが、介護福祉養成課程の専任事務職が兼務となっている。

【委員からの意見】

- ・ 特になし

【改善の方策】

- ・ 学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守するとともに、社会福祉士介護福祉士学校指定規則に則り、介護福祉養成課程の兼務となっている事務職員を専任に改善する。

基準 10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

- ・ 学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施した。
- ・ 自己点検・評価および学校関係者評価の結果を公表して、社会に対する説明責任を果たしている。

【委員からの意見】

- ・ 特になし

【改善の方策】

- ・ 自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を踏まえて、現状と課題をもとに策定した改善計画を全教職員で共有し、前期・後期と振り返りを行いながら、組織として課題解決に取り組む。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

「ASO こども食堂」、「子育てサロン」はコロナ禍ではあったが、ある程度実施することができた。社会福祉施設のボランティアは依頼がほとんどなく、学生は参加出来なかった。

【委員からの意見】

・コロナ禍により地域とのつながりが無くなってしまっているが、何かしたいという個人の意見は聞いている。グループ単位になるとなかなか実現できないところもあるので、専門学校、地域の医療機関と協力していきたい。そろそろ何かできることを考えていきましょう。

・ボランティア、学生が参加する場の提供であれば、施設に出向いて実施できることもあるのではないかと。時間の制約を減らしてオンラインでの発表は一つあるのかと思う。

・地域のニーズを把握して地域貢献の機会を検討することも大事だと思うが、何ができるのかを考えることも大事だと思う。文化的なこと（地域のお祭りや行事の参加や維持）、保健医療福祉的なこと（高齢者の生活支援、育児支援）に積極的に取り組んでほしい。

・ボランティア等は貴重な体験であり、とてもよく活動されている。

【改善の方策】

地域のニーズを把握し、さらに地域貢献の機会を検討していく。また、オンラインでできる地域と学生の交流も検討していく。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

【評価結果・取組み状況】

留学生の受け入れ、留学生のサポートを実施している。留学生は在学生の約1割、(42名)が在席しており、生活支援も含めて留学生が活躍しやすい環境を整えている。

【委員からの意見】

・とても良いと思う。留学生に接することで、言葉など文化の違いなどを取り入れる機会があって良いと思う。

【改善の方策】

・介護系クラスでは日常的に留学生と交流ができているが、その他の学科の学生とは中々接点を持っていないので、意識的に交流できる機会やお互いを知ることができる取り組みを検討していく。